

静岡県

定数： 9 名

立候補者数： 10 名



氏名 和泉 謙二
氏名ふりがな いずみ けんじ
都道府県士会 静岡県
年齢 62
勤務先名称 共立蒲原総合病院

日本理学療法協会活動歴

平成25年度 指定規則検討特別委員会、平成26年度～令和7年度 代議員
平成26年度 士会強化検討特別委員会、平成27～28年度 将来構想戦略
会議災害対策本部 平成29年度～令和6年 議事運営委員会 令和元年度
業務指針・ガイドライン検討委員会

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成元～2年度 広報部長、平成3～6年度 研修部長、平成7～8年度 生涯学習部
長、平成9～10年度 教育部長、平成11～12年度 学会部長、平成13～14年
度生涯学習部長、平成15～16年度 教育局長、平成17～18年度 規約審議委員
長、平成19～24年度 事務局長、平成25年度～令和2年度 会長、令和3年度～
現在 監事。第37回東海北陸理学療法学会大会大会長（令和3年度）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

平成元年以降、静岡県理学療法士会役員を務める中で特に平成19年以降の事務局長
3期6年、会長4期8年の計14年間は士会組織力強化に関わる業務として法人格の取
得（中間責任・一般社団・公益法人）、専用事務所の設置や専従職員の直接雇用、他団
体との協力関係構築、リハ専門職団体協議会の立ち上げ、J R A T地域支部設立への協力
等、多くの経験をさせていただきました。
行政との関係構築では、県や市町との協業の中で地域包括ケアシステムにおける理学療法
士としての位置づけを明確にするため働きかけつつ、加えて将来にわたって理学療法士が
継続的に雇用されるため、関連諸団体との関係構築や行政への働きかけ、国会議員・県議
会議員との情報交換等を含め活動して参りました。
多様性社会を迎え、今まさに理学療法士の「価値」が問われる時代となりました。協会組
織と県会員がそのイメージを共有できるよう橋渡しの役を担いたく立候補いたします。



氏名 渡邊 勉
氏名ふりがな わたなべつとむ
都道府県士会 静岡県
年齢 40
勤務先名称 富士脳障害研究所附属病院

日本理学療法協会活動歴

2020年～2026年3月 公益社団法人 日本理学療法士協会 代議員
2023年4月 会員定着復会促進検討部会 委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2016年6月 第20回 静岡県理学療法士学会 厚生局長
2017年7月 第20回 静岡県理学療法士会 公開講座 企画局長
2019年6月 第23回 静岡県理学療法士学会 公開講座局長
公益社団法人 静岡県理学療法士会 社会局 理事
2021年6月～現在 公益社団法人 静岡県理学療法士会 広報局 理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

変化＝成長、現状維持＝衰退と私は考えています。今の時代の変化に柔軟に対応していくことが今後の成長のチャンスではないかと思えます。現状を維持しているだけでは何も変わりません。医療・介護・福祉を取り巻く環境が大きく変化する中、リハビリ専門職にはこれまで以上に多様な柔軟な役割・変化が求められております。

理学療法士は、従来の「機能回復」や「日常生活支援」の枠を超え、地域に、社会に、新たな価値を創出する存在へと進化・変化しつつあります。医療機関内での枠を超え、予防分野への関与が急速に拡大し、健康寿命の延伸に向けた取り組みが全国で急速に進みました。疾患発症後の回復だけでなく、「病気になる身体づくり」「住み慣れた地域でいきいきと暮らすための支援」こそ、今後の地域社会で強く求められる役割であると言えます。

「目の前の患者・利用者のために」から「地域のために」へと視野を広げ「よりよい社会を創るために」理学療法士は日々変化していく必要があります。

新たな取り組みにも積極的に取り組んでいき、会員の皆様のさらなる発展と飛躍のために少しでもお力を貸せればと考えております。ご支援をよろしくお願い致します。



氏名 小山内 隆
氏名ふりがな おさない たかし
都道府県士会 静岡県
年齢 62
勤務先名称 熱川温泉病院

日本理学療法協会活動歴

平成27年～平成30年 日本理学療法士協会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成25年～平成28年 静岡県理学療法士会 理事 社会局長
平成29年～平成30年 静岡県理学療法士会 常務理事 学術局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私は2年前に還暦を迎え、勤務していた病院を退職しましたが、嘱託職員という扱いでそのまま同じ病院に勤務しております。職場の若いスタッフからは、今の協会はよくわからないという悩みを聞くことが増えています。今回、若い理学療法士のために、還暦世代として最後にできることをしたい。その思いから、立候補を決意しました。私たちの世代は、日本理学療法士協会の拡大と制度化の時代を経験してきました。一方で、「高い協会費」「現場の実感と乖離した認定・専門制度」「一般会員の声が届きにくい協会運営」といった「負の遺産」を、十分に是正しないまま次の世代に引き継ごうとしているのではないのでしょうか。実際に多くの病院・施設で、
「給料は上がらないのに会費は高い」
「認定を取っても評価も待遇も変わらない」
「協会は自分たちのために何をしているのか分からない」と感じている若手理学療法士が少なくありません。これは、若い世代の努力が不足しているせいではありません。制度と運営を作ってきた、私たち上の世代の責任だと考えています。だからこそ私は代議員として、
・若い世代が「納得して会費を払える協会」へ
・若い世代が「希望を持てる認定制度」へ
・若い世代の声が「きちんと届く協会」へ
私は、次の世代に「仕方がない協会」「入らなくてもいい協会」を残したくありません。「自分たちの未来を考えてくれた先輩がいた」そう思ってもらえる役割を果たし、この世代の責任を果たしたいと考えています。静岡県の一会員として、若い理学療法士の未来を預かる代議員となることをお約束します。ご理解とご支援を、心よりお願い申し上げます。



氏名 武 昂樹
氏名ふりがな たけ こうき
都道府県士会 静岡県
年齢 31
勤務先名称 北斗わかば病院

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

第28回静岡県理学療法学会 準備委員（副企画局長）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

日本神経理学療法学会 静岡地方会 部員（2025年4月から現在）

立候補の趣旨

日本理学療法士協会や静岡県理学療法士会からの情報や学会、研修などの機会に多く参加し様々な学びや仲間を得ることができ、自身のキャリアを築くことができている。具体的には地域支援事業の講師、スポーツ事業への参加、学会への参加・発表・座長・企画運営や講師の機会を頂くことがあります。様々な機会を頂く過程で協会運営についても関心があり、この度の代議員選挙に立候補させていただきました。特に生涯学習制度について強い関心を持っております。

日本理学療法士協会では、数年前より生涯学習制度が刷新され、従来よりも体系的で、より深く広い学習が求められる制度となりました。専門性の向上を目指す上で、非常に意義のある制度であると感じています。

一方で、登録理学療法士取得までの5年以内の若手会員にとっては、努力や学習の成果が評価されにくい側面があるのではないのでしょうか。

学術活動等により高度な実績を上げている方がいらっしゃる、その実績を評価できないことは妥当ではないと思います。

若手理学療法士が積み重ねている学習が適切に評価される仕組みが必要です。

現場で働く一会員としての視点を大切にしながら、若手から中堅まで、会員一人ひとりの努力がより活かされる制度や環境づくりについて意見を届けていきたいと考えています。

よろしくお願いたします。



氏名 小林 敦郎
氏名ふりがな こばやし あつろう
都道府県士会 静岡県
年齢 53
勤務先名称 順天堂大学医学部附属静岡病院

日本理学療法協会活動歴

2024年～現在 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2013年～2017年 公益事業局メディカルサポート部部长
2017年～2021年 理事（予防局長）
2017年～2021年 学術局専門部会 運動器系専門部会長
2021年～2025年 常務理事（職能公益事業担当）
2023年 第26回静岡県理学療法学術大会大会長
2025年～現在 会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2023年～現在 日本スポーツ理学療法学会
理学療法士の超音波画像診断装置使用に関する検討委員会委員

立候補の趣旨

これまで士会役員として公益事業を中心に活動してまいりました。協会主導による事業に加え、士会独自の取り組みとして、スポーツ分野や高齢者向けの介護予防事業、産後・産業領域への支援、学校保健事業など、多岐にわたる事業展開に携わってきました。近年、理学療法士に対する社会的ニーズは、治療のみならず予防、健康増進、地域支援へと広がっており、我々に寄せられる期待も一層多様化しています。このような状況の中で、協会と士会が方向性を共有し、相互に補完しながら事業を推進していくことが重要であり、協会が時代の要請に応じた取り組みを進める一方で、士会から現場発の実践や課題を発信していくことが、理学療法士全体の活動基盤の強化につながると感じています。また、会員組織率低下は全国的にも喫緊の課題であります。これらは事業参加率の低下や人材不足を招き、理学療法士の社会的価値を十分に発揮できない要因となり得ます。協会と士会が連携し、今後の方向性や具体的な改善策を検討していかなくてはと考えます。私は士会会長として、士会会員の声を協会に届けるとともに、協会の方針や取り組みを士会会員へ適切に還元する橋渡し役としての役割を果たしたいと考え、今回代議員に立候補いたしました。理学療法士が社会から信頼され、国民の健康福祉により一層貢献できる体制づくりに尽力してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 山下 裕太郎
氏名ふりがな やました ゆうたろう
都道府県士会 静岡県
年齢 47
勤務先名称 遠州病院

日本理学療法協会活動歴

2023-2025 第60回日本理学療法学会 渉外部長

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2011-2012 西遠支部 支部長
2013-2016 公開講座研修部長
2017-2020 理事（生涯学習担当）
2021-2024 理事（地区事業担当常務理事）
2025-現在 副会長
2018-2019 静岡県理学療法士会50周年記念誌 編集委員長
2020-2022 第25回静岡県理学療法士学会 準備委員長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

昨今、社会情勢や働き方の変化の中で、協会の組織率が低下していることは事実です。一方で、理学療法士が社会から必要とされ続ける存在であるためには、協会という組織の力を高め、職域や地位、そして安心して働ける環境を守っていく必要があることも、また事実だと考えています。

現在、私は静岡県理学療法士会の副会長を務めるとともに、医療機関の管理職として、若手から経験年数を重ねた理学療法士まで、多くの声に触れてきました。制度や方針が現場に与える影響の大きさ、そして協会の考えが現場に十分に伝わらず、納得感を得られないまま働いている理学療法士が少なくない現状を実感しています。

理学療法士は、資格を取得して終わる職業ではありません。プロフェッショナルである以上、学術活動や日々の研鑽を通じて、自らを高め続けていく使命があります。その営みを個人任せにするのではなく、支え、後押しする仕組みを整えることこそ、協会の重要な役割だと考えています。協会に入会していることのメリットを最大限に打ち出し、「所属していてよかった」と実感できる環境づくりが必要です。

代議員として、私は現場の声をすくい上げ、整理し、協会に届けることに取り組みます。同時に、協会の考えや方向性を現場に分かりやすく伝え、双方が少しでもつながりを感じられる状態をつくっていきたいと考えています。若手や中堅の理学療法士が孤立せず、前向きに成長し続けられる環境づくりにも関わっていきたいと思います。



氏名 瀧 和人
氏名ふりがな たきかずと
都道府県士会 静岡県
年齢 48
勤務先名称 ナーシングステーション宮代

日本理学療法協会活動歴

・令和2年4月～現在 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

・平成15年7月～平成16年3月 社会局 広報・PT週間部長
・平成23年4月～平成24年3月 教育局 研修部長
・平成25年4月～平成30年3月 生涯学習局 理学療法士講習会部長
・平成29年4月～平成30年3月 中部地区長
・平成31年4月～ 専務理事（現在4期目）
・第21回静岡県理学療法士学会 準備委員長
・第24回静岡県理学療法士学会 副学会長
・第37回東海北陸理学療法学会 学術局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

この度、4期目の代議員に立候補させていただきます瀧和人と申します。私はこれまで公益社団法人静岡県理学療法士会で研修部長・理学療法士講習会部長として各種研修会の企画・運営、また県士会中部地区長として若い会員の方々と関わる機会を多く経験させていただきました。平成31年からは専務理事として静岡県理学療法士会の組織体制の強化と県士会員の動向を見守る立場にあります。

今、我々の団体では新入会員の減少や退会者・休会者の増加による組織率の低下が解決できない課題として残っております。これは士会の課題でもあり様々な取り組みが思案され実践されております。会員の年齢構成も20代・30代がメインとなり、今後の活動の目線はこの年代を中心に進めていく必要があります。「言っても無駄だし・・・」と諦めの声だけが残らないように、我々の世代が次世代のために必死に動く・働くタイミングだと認識しております。

私は静岡県理学療法士会の事務局長として、また会員の代表である代議員として皆様の声を拾い届けていく事が使命だと思っております。

今後も会員皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



氏名 小原 智永
氏名ふりがな こはら ともりのり
都道府県士会 静岡県
年齢 42
勤務先名称 (株)リハライフサポート

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2013年～2017年	静岡県理学療法士会	中部地区志太榛原支部長
2014年	第17回・18回市民公開講座	副実行委員長
2017年	第21回静岡県理学療法士学会	事務局長
2017年～2021年	静岡県理学療法士会	予防局 介護予防部長
2018年～2022年	スポーツ理学療法推進協力者	
2021年～2023年	静岡県理学療法士会	理事（職能局長） シズケア*かけはし普及拠点推進事業担当
2023年～2025年	静岡県理学療法士会	理事（中部地区理事）
2025年～現在	静岡県理学療法士会	常務理事（地区事業担当）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

特になし

立候補の趣旨

これまで3期にわたり、静岡県理学療法士会の理事・常務理事を務め、会員に寄り添った活動を行ってきました。支部連絡会を「PTネットワーク」として刷新し、会員同士のつながりと県士会活動への理解促進を図るとともに、LINEオープンチャットの導入により情報伝達の利便性を高めました。また、後期研修における症例検討ポイント取得の課題にも対応し、会員の実務的ニーズに応えてきました。

今後は、これまでの経験とネットワークを活かし、PTネットワークを理学療法士同士にとどまらず、他団体・行政・企業とも連携するプラットフォームへ発展させていきたいと考えています。あわせて、デジタル化による会員サービスの向上、地域での活動基盤強化、若手会員の育成支援に取り組み、理学療法士会全体の発展に貢献していきます。引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



氏名 菊池 和幸
氏名ふりがな きくちかずゆき
都道府県士会 静岡県
年齢 45
勤務先名称 ナーシングステーションみや

日本理学療法協会活動歴

平成26年～公益社団法人日本理学療法士協会静岡県代議員（6期）
令和3年～公益社団法人日本理学療法士協会役員報酬等委員会委員（3期）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成25年～一般社団法人 静岡県理学療法士会理事
平成28年～静岡県リハビリテーション専門職団体協議会事務局長
平成29年～公益社団法人静岡県理学療法士会副会長
令和7年～公益社団法人愛知県理学療法士会外部理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

7期目の代議員に立候補させていただきます、静岡県理学療法士会の菊池和幸でございます。私は平成25年より静岡県理学療法士会理事、静岡県リハビリテーション専門職団体協議会事務局長、静岡県理学療法士会副会長、日本理学療法士協会役員報酬等委員会（3期）を務めさせていただいております。改定を重ねるたびに地域医療・介護分野を担うべき我々にとってますます厳しい状況となり、将来、地域へ職域を拡大していくはずの理学療法士の未来が危ぶまれていると感じています。社会保障制度における理学療法士の存在意義を強く示し、確固たる地位を確保していくこと、そして何よりも若い会員の将来を守るこそ我々代議員の使命であると考えております。「実行力」と「結果」。常に攻めの姿勢で、日本理学療法士協会の発展と職能団体としての底上げのために、そしてこれからの時代を担う若い理学療法士のために、微力ながら協力させていただきたいと思い立候補させていただきます。皆様の、御支援、御協力を何卒宜しくお願い致します。



氏名 高木 亮輔

氏名ふりがな たかぎ りょうすけ

都道府県士会 静岡県

年齢 40

勤務先名称 J A 静岡厚生連 中伊豆温泉病院
通所リハビリテーション リ
ハッピー

日本理学療法協会活動歴

2018年～ 日本理学療法士協会 代議員
2019年～2021年 新人研修ガイドライン作成委員会
2021年～2022年 登録理学療法士後期研修 実地研修教材検討部会
2022年～2023年 日本理学療法学会 学術研修大会代替プログラム検討部会
2022年～2024年 指定規則等検証部会（臨床実習の在り方検討作業部会）
2025年～ 理学療法士労働環境委員会
2025年～ 卒前卒後教育シームレス化検討部会

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2017年～ 静岡県理学療法士会 理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年～ 日本理学療法教育学会 理事

立候補の趣旨

私が今回、代議員に立候補した理由として、静岡県士会員の協会活動に対する期待と不安をしっかりと協会に伝え、また協会の今後の事業展開に関して情報を共有する橋渡しを適切に実行していきたいと思うからです。

これまでも静岡県の代議員として4期に渡り、活動させていただきました。先日の協会役員選挙、協会長選挙を経て、新しい体制として期待を膨らませながらスタートしたにも関わらず、静岡県の会員からは混乱や困惑、不安の声が多く寄せられておりました。協会の体制も制度も目まぐるしく変わる一方で、募る不安・不満をどう処理してよいかわからないのが県士会員の皆さまの実情かと思っております。その結果が会員の退会や休会、新規未入会者の増加に繋がっており、県士会としても組織率の低迷やマンパワーの不足に繋がっているところが現状です。これから2040年問題に向けて理学療法士は組織としての成長・発展、地位の確立をしっかりと推し進めていくべき時期に入ってきております。協会と県士会員の皆さまとの間で、十分なコミュニケーションが図れるよう代議員としての務めを果たさせていただき、今一度、協会と県士会員の皆さまとの間に確固たる信頼関係を築き、理学療法士の団体として会員ひとりひとりの活躍の場や地域貢献を十分に支援してもらえる組織になっていただくよう働きかけていきたいと思い立候補いたしました。